

[抄録様式]

<p>公益財団法人 8020 推進財団</p> <p>令和 2 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録</p>
<p>1. 事業名：県民の糖尿病重症度と残存歯数、歯周病重症度、食の QOL 関連調査事業</p>
<p>2. 申請者名：一般社団法人 島根県歯科医師会 会長 内田朋良 担当者名：一般社団法人 島根県歯科医師会 理事 松本健太郎</p>
<p>3. 実施組織：一般社団法人 島根県歯科医師会</p>
<p>4. 事業の概要：</p> <p>「県民残存歯数及び歯周病等状況調査」(以下、県民残存歯調査)は、県が『島根県歯と口腔の健康を守る 8020 推進条例』に基づき、5 年に 1 回、実施する。調査は、残存歯数や歯周病罹患状況、噛み合わせ等を把握するとともに、年齢や全身疾患等との関わりについて分析し、その結果を次期歯科保健計画(島根県歯と口腔の健康づくり計画も含む)に反映させ、歯科保健対策の企画及び事業化の基礎資料とする。今回、県の委託を受けて行う調査では、前回調査項目に糖尿病の方の HbA1c 値 (NGSP 値) と補助清掃用具の使用の有無の 2 項目を増やして実施し、食の QOL を維持ならびに、口腔の健康は全身の健康につながることを確認する。</p>
<p>5. 事業の内容：</p> <p>令和 2 年 9 月 1 日から同年 9 月 30 日の調査期間内に病院歯科を除く島根県歯科医師会会員の歯科診療所に来院および訪問診療先の患者、4 月 1 日から 8 月 31 日に市町村での歯科健診受診者で、当調査協力の同意を得た 20 歳以上の県内居住者に対し実施する。実施方法については口腔内診査および聞き取りにより実施した。</p>
<p>6. 実施後の評価 (今後の課題)：</p> <p>調査対象は、20 歳以上の男性 15,150 名、女性 19,593 名、性別不明 270 名、合計 34,940 名で 20 本以上歯がある者の割合は、全階級において増加していた。</p> <p>ただ、1 人平均残存歯数は過去 4 回の調査と比べ、同じ年齢であっても 40 歳以降は増えてはいるが、30 代は若干減っており、40 歳以前の壮年期に入る前の段階における歯の喪失防止は検討課題である。</p> <p>また、今回調査で追加した項目のうち、補助清掃用具については、男女とも補助清掃用具使用ありの方が咬合ありと回答している割合が多く、臼歯部への補助清掃用具の使用は、咬合関係を保つのに有効と考えられた。</p> <p>一方、糖尿病がある者に対して HbA1c 値を聞き取り調査したが、残存歯数との関連性は見られなかった。しかし、約 6 割の方から数値を聞き取ることができたことは、患者自身の意識が高くなったことだけでなく、医療提供する側も積極的に患者の基礎疾患を知ろうとする意識も高くなってきているのではないかと考えられ、糖尿病重症化予防推進における医科歯科薬科連携につながることを期待したい。</p>